企業プロフィール

北海道コカ·コーラボトリングの事業範囲は、北海道全域。地域の健全な発展がなければ、私たちの事業も成り立ちません。道民の皆さまと支え合いながら、社会的責任を果たしていきます。

経営理念

私たちは、知的に活性化された豊かで創発的な社会に貢献します。

経営指針

私たちは、

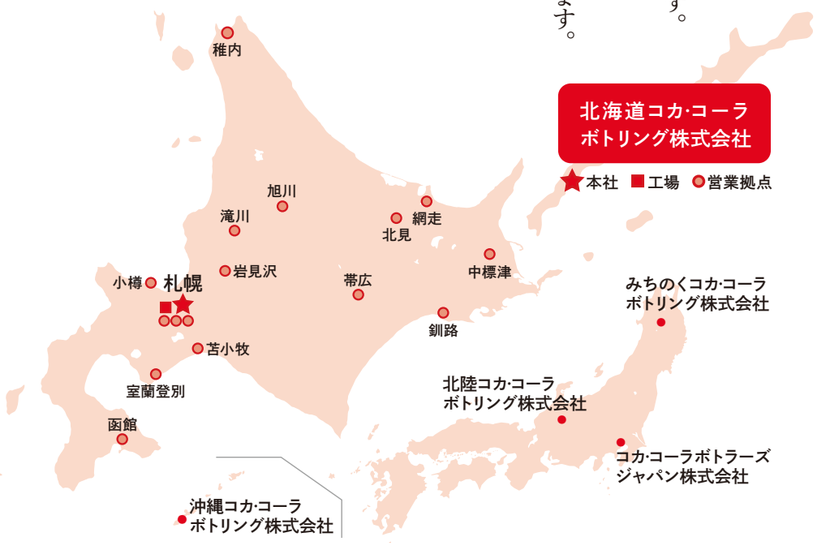
1. 生活者やパートナーに「さわやかさと潤い」を提供します。
2. 生活者やパートナーとの共存共栄を図るとともに地域社会に貢献します。
3. 変革にチャレンジし、活力ある創発的な会社をつくります。

社員行動規準

・私たちは、常に「さわやかさと潤い」を届けます。
・私たちは、生活者やパートナーとのコミュニケーションを大切にします。
・私たちは、一人ひとりがさわやかな存在になります。
・私たちは、時代の変化に適応し変革を起こし続けます。
・私たちは、「環境に、地域に優しい」企業活動を実践します。
・私たちは、良き「企業市民」として社会に貢献します。

事業所ネットワーク

札幌本社を中心に全道16カ所の事業所を展開。変わらぬ品質を確実にお届けしています。



コカ·コーラシステムについて

日本コカ·コーラ株式会社から原液の供給を受けて製品の製造と販売を行うのが、当社のようなボトラーです。ボトラーは全国に5社。それぞれの地域に根ざしたきめ細かなサービスを展開しています。

会社の概要

商号	**北海道コカ·コーラボトリング株式会社** （コカ·コーラ指定会社） HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.
設立	1963年1月24日
代表者	代表取締役社長　佐々木 康行
本社所在地	〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号 TEL（011）888-2001（代表）
資本金	29億3,515万4千円
従業員数	430名（グループ1,302名）
事業の概要	北海道を販売地域とした清涼飲料の製造及び販売
事業所	本社、札幌工場、営業拠点（16）
決算期日	毎年12月31日（年1回）
上場証券取引所	東京証券取引所市場第2部、札幌証券取引所

グループ会社の概要

●北海道コカ·コーラプロダクツ株式会社
清涼飲料水及び飲料水用容器の製造
各種自動販売機の修理、設置及び撤去

●北海道ベンディング株式会社
自動販売機による飲料、食品等の販売

●幸楽輸送株式会社
コカ·コーラ社製品の工場・営業拠点間の輸送、一般貨物輸送、倉庫業

●北海道サービス株式会社
一般事務処理業務、事務機器等のリース、清掃業、損害保険代理業

企業集団の財産及び損益の状況の推移

（単位：百万円）

区分	第54期（2015年）	第55期（2016年）	第56期（2017年）
売上高	58,094	56,620	56,061
経常利益	1,030	2,441	2,431
親会社株主に帰属する当期純利益	516	1,587	1,884

北海道コカ·コーラボトリングCSRレポート2018　第三者意見

日本赤十字北海道看護大学　看護薬理学領域教授
災害対策教育センター長
薬学博士
根本 昌宏

北海道医療大学薬学部薬学研究科薬理学専攻博士課程修了。日本赤十字北海道看護大学災害対策教育センター長。北海道のオホーツクフィールドを活用して、厳冬期の避難所の展開や暴風雪時の車内対応の演習などを行い、その検証と開発に取り組んでいる。

北海道コカ·コーラグループが掲げる「つなぐ」「きずな」という言葉。7年前に発生した東日本大震災で数多くの人の心に響き、今も息づく言葉である。CSR報告書を拝見して思うことは、全道を網羅し、多様な人脈を持つ北海道コカ·コーラグループだからこそできる「つむぐ」という作業を、多角的なCSR活動により実現している事実である。そして様々な活動を通しながらそこにはひとつの幹がある。それは水を中心に据えたいのちの育みであろう。今を生きる人への水、次代を担う子どもたちへの水、さらにこれから産まれくるいのちへの水。その思いを、一つひとつの活動からはっきりと読み解くことができる。道内各地の防災事業でご一緒させていただくと、それらが日常のことだけでなく、非常時にも通ずることを実感する。実際、災害時に困難と不安な避難生活を送られている人々へ向けられた数多くの支援が、どれだけ大きな安らぎを与えたことか。

文明が進み、技術が進化し、何事も便利な世の中になるにつれ、自己完結型の生活が難しくなってきているように思う。特に北海道は長く厳しい冬がある。「停電」「暴風雪」「一酸化炭素」。道民であれば冬期間に心のどこかで意識する言葉であろう。安全に健やかに生きるためには最低限の知識と経験が必要となる。CSR報告書の中で特筆すべきは子どもたちへの実体験の提供であろう。教室では学ぶことのできない数多くの体験型アプローチが、現代っ子たちに生きる力を醸成する原動力となっているように思う。社員の皆さんの爽やかな笑顔はもちろん、時おり見せる真剣な眼差しが、子どもたちの心に響き、それが次に活かされ、ひいては次代の社会を切り拓いていくことにつながる。

CSR活動の重要な点はそれが一方向、すなわち社会に与えるだけではないところにある。活動から得られる学び、気づきそして出会いが、北海道コカ·コーラグループの発展に寄与していることは疑う余地がない。地域と融合することで、時代の流れを踏まえた変革を生じ、それが類まれなる企業スタイルを創り出しているのではないだろうか。

北海道は総人口の減少と超高齢化の扉が開かれようとしている。30年以内の巨大地震発生想定からも目を背けてはならない。これからどのような時を歩むのかが問われている。150年となる北の大地に、健やかないのちを育み、これからも挑戦し続ける北海道コカ·コーラグループであることを願う。